

令和6年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

グローバルに活躍する資質・能力を育成するため、言語活動を通して資質・能力を育成することを目指した授業改善、ALT等との効果的なチーム・ティーチングの推進を図る。

○「授業で学習した英語を使って、自分のことや身近なことについて話すことができる」と回答する小学生の割合 (R5:67% ⇒ R6:80%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定状況等が改善 R4 R5
設定 96.9% → 100 %
公表 54.2% → 58.6%
把握 82.4% → 83.5%

- ②英語による言語活動の時間の割合が改善
R4 R5
50%以上 93.3% → 96.7%

- ①指導体制を変更したことによる授業改善を推進する必要がある。
身近なことについて話すことができると回答する小学生(独自調査)
R4 70.6% → R5 67.1%

- ②英語以外の授業や学校行事でのALTと児童との交流に改善の余地がある。
R5
実施せず 91.2%

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

- ①②教育センターの対面型の研修や研修動画配信、義務教育課の研修動画配信等で指導と評価の一体化について理解、言語活動を通した授業改善が進んだと考えられる。

- ①パフォマンステストでのALTの活用状況に学校間の差が見られる。また、外国語指導アシスタントからALTの派遣に変更するため、効果的に活用できるように支援する必要がある。

- ②派遣している外国語指導アシスタントは授業にのみ活用できることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①CAN-DOリストの活用の推進
CAN-DOリストの設定については周知できた。指導と評価の一体化のために、達成状況の把握や児童との共有（公表）が必要であることについて教育センターにて各種研修を行う。

- ②言語活動を通した授業改善の推進
「言語活動を通して資質・能力を育成する」について周知が進んでいる。「ナゴヤ学びのコンパス」の「夢中で探究する」児童の姿を目指し、言語活動の質（コミュニケーションを図る目的や場面、状況の設定の工夫等）を高める研修を実施する。

- ①②ALTを生かした授業改善の推進
外国語指導アシスタント派遣からALT派遣に変更する初年度であるため、義務教育課にて、小学校に向けたALT派遣事業説明会やALTに向けた研修会を開催する。
ALTコーディネーターを小学校に派遣し、全てのALTに効果的なチーム・ティーチングについて指導・助言を行う。

令和6年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

グローバルに活躍する資質・能力を育成するため、言語活動を通して資質・能力を育成することを目指した授業改善を推進する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5:56.1% ⇒ R6:60%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が増加
R4 R5
37.7% → 56.1%

②英語教育に関する小中連携の実施状況が改善
R4 R5
47.3% → 80.9%

未だ改善が必要な点

①言語活動の時間の割合（授業中の50%以上）については改善の余地がある。
R4 R5
52.1% → 55.8%

② R5全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、英語学習の有用性を自覚しているものの授業が十分理解できず満足していない結果が見られた。

2. 要因分析

①ALT配置、各種研修の実施等により授業改善を推進し、指導力が改善した。また、指導と評価の一体化について理解が進んだと考えられる。

②校長対話集会、教務主任学習会、英語主任の情報交換会を実施したことで改善したと考えられる。

①言語活動の実施状況に学校間の差が見られる。資質・能力について「言語活動を通して」育むことへの理解が十分でないことが要因と考えられる。

②授業中に意味のあるやり取りを行う等言語活動の実施状況や生徒主体の授業となるような授業改善が十分でないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①「ナゴヤ学びのコンパス」を踏まえた授業改善
重視したい学びの姿が授業で表れ、子ども中心の学びに転換できるように、研修内容を改善する。また、ICTを活用し、「話すこと」「書くこと」のパフォーマンステストの質を改善する。

②学校間連携を推進するため、中学校ブロックでの教職員が対話する機会、教員が交流する機会を提供し、連携の質を高める。

①②「ナゴヤ学びのコンパス」を踏まえた授業改善

- ・ナゴヤ学びのコンパスと英語の授業改善の方向性を明らかにした教育センター研修を運営する。
- ・教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修の活用、英語資格・検定試験の特別受験制度を周知し、英語力・指導力向上を図る。
- ・言語活動の例、「ナゴヤ学びのコンパス」やキャリア教育と外国語教育の関係を示した教育課程例や9年間を見通した学習到達目標を作成する。
- ・「指導の個別化」「学習の個性化」を意識した「子ども中心の学び」に転換できるようにICTの活用、言語活動の充実等を研修に取り入れる。

令和6年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力、グローバルに活躍するための資質・能力を育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合

(R5: A2以上 50.2%、B1以上 19.8% ⇒ R6: A2以上 55%、B1以上 20%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語担当教師の英語力の状況 CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合が増加した。

(R4:67.0%⇒R5:85.4%)

①生徒の英語力の状況 CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が減少した。

(R4:54.9%⇒R5:50.2%)

②英語による言語活動の時間の割合（授業中の50%以上）が減少した。

(R4:44.8%⇒R5:36.4%)

③英語担当教師の英語使用状況（発話の50%以上）の割合が減少した。

(R4:34.3%⇒R5:28.6%)

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①において、英語担当教師の外部検定試験助成を活用する等資格取得の機会の周知を行ったことが一因と考えられる。

①において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するための研修の実施や、英語に特化したコースでの授業改善をより一層強化する必要がある。

②について、「言語活動」そのものの理解と「言語活動を通して」資質・能力を育むことの重要性を再確認することが必要である。

③について、英語担当教師の英語力は全国平均よりも高いが、英語をコミュニケーションの手段として用いた授業改善を強化する必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③教育センター研修

・高等学校教育課程研究集会

　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進を図るために、高等学校教育課と連携して実施する。各校各教科の代表者が参加する。

・高等学校各課研修講座

　最新の教育動向、新学習指導要領を踏まえ、授業力等の更なる向上を図る。

・高等学校探究セミナー

　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するために、理論を学び、演習を通して実践力を養う。各校代表者が参加する。

・高等学校学びの変革研修

　学習指導要領の趣旨に沿った高等学校における授業の在り方を研究し、教員としての資質・能力の向上を図る。

・経年研修での外国語教育に関する研修

・ICTの効果的な活用に関する研修

①②③ALT等の配置（全高等学校）

目標達成状況一覧表

令和6年度様式（様式2）

名古屋市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	50.2	55		60		65		70	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	19.8	20		25		30		35	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60	36.4	60		65		70		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	28.9	90		95		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	70.6	100		100		100		100
		公表(%)	100	35.3	70		80		90		100
		達成状況の把握(%)	80	47.1	60		65		70		75
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	85.4	90		92		94		96	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	60	28.6	55		60		65		70	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	56.1	60		65		70		75	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60	55.8	80		90		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	80.3	90		95		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	70	50.9	70		80		90		100
		達成状況の把握(%)	85	67.3	85		90		95		100
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	52	48.2	52		53		54		55	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	60	51.5	60		65		70		75	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	60	58.6	65		70		75		80
		達成状況の把握(%)	85	83.5	90		95		100		100